



桜並木学園
つくば市立並木小学校だより

未来へ



NO. 40
令和3年2月2日（火）

なぜ2月2日が節分なの？

職員室で話題になっていたもので、調べてみました。

節分はもともと立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言います。季節を分ける日という意味です。特に年の始まりの春の節分が残ったと言われています。今年は立春が一日前にずれたので節分がずれたということです。

ざっくり言うと閏年（うるうどし）と同じ感覚だそうです。1年間を二十四節気に当てはめて定期的な運用をしようとする、1年に少しずつ誤差が出てきて、ずれが生じます。その調整をしていくと例年より1日早い立春になることがあるということです。2月2日が節分になるのは、

124年ぶりらしく、逆に1984年（昭和59年）は、【図書室前 今月のテーマはおに】
立春の日が2月5日で節分が2月4日だったそうです。覚えていませんが…。
生きているうちにこんなに珍しい日を過ごせた。と思えば、なんとなくラッキー！？



少人数学級

日本の公立小中学校1クラスあたりの児童生徒数は、小学校27.2人。中学校32.1人。OECDの平均では、小学校21.0人。中学校23.2人となっています。

現在、日本の学級編制の上限は、小1が35人。小2～中3まで40人となっていて、以前から、教職員が一人一人の子供と向き合う時間を確保し、よりきめ細やかな教育ができるようにいわゆる「少人数学級」を望む声が強まっていました。文部科学省は2021年度の予算概算要求で公立小中学校の少人数学級実現のための予算を、金額を明示しない「事項要求」としていましたが、先日、財務省との調整の結果、学級編制基準の改正が行われました。なかなか進まなかったこの案件は、新型コロナウイルス感染症対策により、教室で児童生徒の間隔を広げることや学習上の各種の制限等が後押ししたことも大きな要因です。まずは小学校を、来年度から5年間をかけて順次35人学級が実現されていきます。教室の密を考えるなら「中学校を早めたほうがよいのではないか。」という意見もありますが…。ちなみに、本校では1学級35人以上なのは5年生のみなので、残念ながら直接の関係はありません。

「元気に挨拶してくれる子がたくさんいました。嬉しくなります。」

1月の朝のあいさつ運動～4・3年生の保護者の皆さんの声

- みんな寒そうでしたが、元気に挨拶してくれました。朝の登校の様子が見られて良かったです。
- 連日寒い日が続きますが明るく元気に登校する子供たちの姿を見ることができました。今年も皆、仲良く楽しい学校生活が送れますように。
- 久しぶりに子供たちと挨拶を交わすことができました。
- 挨拶をすると返してくれたり、自ら挨拶してくれたり気持ちがよかったです。
- 朝から元気な子、眠そうな子、様々な様子が見られました。
- 子供たちの元気な姿が見れてよかった。



「挨拶にも、その子なりの個性がありますね。」あるお父さんがこう話しかけてくれました。学年末の授業参観ができなくなりました。その代わりとはいきませんが、お子さんの様子、お子さんの周りの子供たちの様子をぜひ見に来てください。今日から3年2組、5年1組は2月15日（月）から、5年2組は3月2日（火）からです。先にお渡しした計画表以外の日でも、ご都合のよい日に、お時間あれば何度でもいらしてください。そして、**ぜひ教室へ！ 朝の会や1時間目の授業の様子もぜひご覧ください。**

1月もご協力ありがとうございました。